

エイズ・結核・マラリア流行の終結に向けての投資

2015年12月15日

東京 - 今週、世界エイズ・結核・マラリア対策基金（グローバルファンド）は、三大感染症のエイズ・結核・マラリアの終結に向けた取り組みの加速に必要な資金課題やユニバーサル・ヘルス・カバレッジに向けた保健システム強化を協議する大規模な国際会議を開催します。

グローバルファンドの第5次増資準備会合は、12月16日・17日に東京で開催され、各国の保健大臣や、ビル&メリンダ・ゲイツ財団のビル・ゲイツ共同会長、世界保健機関（WHO）のマーガレット・チャン事務局長、エチオピアのテドロス・アドハノム・ゲブレイエスス外務大臣（元保健大臣）、カナダのマリークロード・ビボー国際開発大臣兼仏語圏諸国連合担当大臣など、国際保健分野のリーダーが一堂に会します。

グローバルファンドの増資会合は、2015年9月に国連加盟国により採択された「持続可能な開発目標」（SDGs）を踏まえ、それを強力に支援するものです。開発途上国が自立発展とユニバーサル・ヘルス・カバレッジを目指す中で、健康格差や保健アクセスの不平等を緩和し、持続可能な移行を支援するための包括的かつ多分野なアプローチをとっています。

準備会合と並行して、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC）をテーマにした会議が開催されます。UHCは日本政府が陣頭指揮をとって推進している世界の重要課題です。この会議では、誰もが経済的に困窮することなく受けられる保健医療サービスと医薬品のアクセスを促進するため、各国が必要とする財政システムや財源を評価します。UHCの達成は、貧困や差別によって感染が蔓延するエイズ・結核・マラリアを根絶するためにも極めて重要です。

グローバルファンドは3年に一度、三大感染症対策に必要な資金額を算定し国際社会に呼びかけて資金を調達する増資会合を開催します。今週開催される増資準備会合は、2016年半ば頃に開催予定の増資会合に向けた資金調達目標が発表されます。

会合では、保健医療施設の整備、医療従事者の育成、情報管理システムの構築、コミュニティ主体の相互支援・対応体制の促進などが強固な保健システムを構築する上でいかに重要かが協議されます。こうしたシステム・体制の整備は、今後15年間の三大感染症対策が効果を上げるための柱となります。

「グローバルファンドは、さまざまなパートナーとの協働により感染症対策において目覚ましい成果を示してきました。エイズ・結核・マラリア流行の終結にむけ、転機点を過ぎた重要な位置にいます。」とグローバルファンドのマーク・ダイブル事務局長は述べました。「グローバルファンドは、イノベーションとパートナーシップを通じて、壮大な課題に挑む国々を世界全体で支援するメカニズムです」

グローバルファンドは、エイズ・結核・マラリアの終結を加速するために設立された21世紀型の組織です。政府、市民社会、民間セクター、感染症当事者コミュニティ等とともに、毎年約40億米ドルを集め、100カ国以上で国内専門家等が計画実施する三大感染症対策事業を支援しています。